

スマイルボックス

大野数芳君・鈴木絃逸君・吉野日出夫君：誕生日のお祝いありがとうございます。

鈴木絃逸君・奈良橋篤君：結婚記念日のお祝いありがとうございます。

安保利和君：入会記念日です。

山本倫弘君：あけましておめでとうございます。本年もよろしくお祈りします。佐々木さん卓話よろしくお祈りします。

小笠原一夫君：おめでとうございます。年初からちょっと良い事がありました。

清水 学君：山本年度下期もよろしくお祈りします。

坂倉儀郎君：本年も宜しく。

井口賢明君：新しい年おめでとうございます。

道部 乗君：今年もよろしくお祈りします。

伊東哲夫君：おめでとうございます。早退します。

安保利和君：早退します。

Bテーブル：テーブル会残金です。

卓話

イニシエーションスピーチ

佐々木力也君



伝統ある沼津北ロータリークラブに入会させて頂き、3ヶ月目となりました。今まで仕事を進めるにあたり、特に誰かに指摘されるわけでもなく、自分なりに「これでいい」と思いながらやっておりましたが、諸先輩方の何気ない会話などを聞き、初心を忘れていたこと、人間的にも社会的にも勉強になることが非常に多く、入会できたことに感謝しております。

さて、私は、昭和43年2月29日東京生まれの沼津育ち、二卵性の双生児の兄として誕生し、妹が4人おります。現在は、妻と私、娘5人の7人家族です。趣味は船釣りと読書です。基本的には何でも読みますが、好きな作家は大沢在昌や奥田秀雄、評論家の竹村健一です。スポーツは、スポーツクラブに通い、後はゴルフとバスケットをかける程度です。

高校ではバスケット部に入部。3年の部活動退部後に、自転車北海道旅行に友人と2人で行きました。この時は殆ど野宿で、公園のベンチやドライブイン、神社の境内などに泊まりました。北海道は本当に広く、途中で飲み水や食料がなくなり、民家も店も無く、ポロポロになりながらも旅行を続けました。今思えば とてもいい経験で、学ぶことが沢山あり、人々の思いやりや協力もとても有難かったです。走行距離は1500キロ位で、延べ日数は1ヶ月程でした。

最初に就職したのは山手冷蔵という会社です。しかし給料が安く先行きに不安を感じ、入社して1年半で、前々から興味があったインテリア関係の会社に転職しました。その当時はバブルの真っ只中で仕事が猛烈に忙しく、毎日深夜まで休み無く働きました。給料は前の会社の倍以上でしたが、日頃のうっぷんと言いますか、若気の至りと言いますか、上司と乱闘騒ぎの大喧嘩をし、首になってしまいました。

次の就職先は、経師屋という所に弟子入りしました。経師というのは襖や障子壁紙などを貼る仕事です。やはりバブル期でしたので猛烈に忙しく、毎日深夜まで働きました。そして23歳の時に「インテリアキヤ」という壁紙を専門に貼る自営業を始めました。その頃もバブルの恩恵を受け、毎日遅くまで働きましたが、先が見え始め先細りの予感がしたところで、30歳の時に廃業し、家業の舗装業を継ぐことにしました。毎日が勉強で、新鮮で面白く、一生続けていこうと思ったのですが、今度は社長の親父とぶつかり、またしても取っ組み合いの喧嘩になり、その勢いで辞めてしまいました。

次の仕事口に迷っていた時に、知り合いの店舗内装業の社長に「うちの会社の現場監督として入ってくれないか」と誘われ、躊躇したものの入社することにしました。後にこの会社が自社直営の大型飲食店を立ち上げ、その店長に自分になることになりました。本部研修を2ヶ月間東京で受け、ノウハウを習得し店を立ち上げることになりましたが、その研修先では自分だけが現場監督あがり、周りから異色の目で見られながら毎日スケールを包丁に変え、調理を勉強しました。店長時代は、学生アルバイト・パートの主婦を何十人も雇い、教育をし、いつのまにか飲食の世界に染まっていった事が思い出されます。そして立ち上げ部隊としてお店を3軒立ち上げました。今は飲食店は持っていませんが、今後はこの時のノウハウや経験を生かしお店を出したいと思っています。

そしてこの会社も退職する時が訪れ、今の会社、アールエスを立ち上げました。最初の頃は仕事が全く無く、どうせ暇だから自分で会社の法人登記をしようと思い、本屋で買った登記方法の本を元に定款を作り、法務局や公証人役場に何度も出向いて登記しました。その間にも、ホームページの作成や営業活動をこつこつ続け、徐々に顧客が増え始め、店舗内装業としてようやく活動し始めました。最初に考えた会社の方針は、店舗内装にこだわらない柔軟な対応と、「できません」という言葉を使わないようにしようということでした。今では住宅・マンションリフォーム、店舗内装、工場施設、福祉施設、介護リフォーム、バリアフリー化などの業務、そしてより一層幅広く対応できるような体制を作りたいと思っています。そして自分自身をもっと磨き、皆様のお役に立てるよう努力していきたいと思っています。

(卓話要約)